

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200804
法人名	医療法人 永寿会
事業所名	グループホームシーサイド(今津1丁目・2丁目)
所在地	福岡県福岡市西区今津3810番地
自己評価作成日	平成25年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年8月28日	評価結果確定日	平成25年12月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○年間を通してほぼ毎月行事を取り入れ、ボランティアの方々も積極的に受け入れるなど、充実した日常生活を提供できるよう努めている。</p> <p>○毎月広報紙を発行し、行事や日頃の生活ぶりをご家族等にお知らせしている。</p> <p>○利用者同士、また利用者職員とのコミュニケーションの場をたくさんつくり、明るく笑い声の絶えない、和やかな雰囲気のあるホームである。</p> <p>○併設医療機関との連携により、24時間必要な医療を受けることができ、健康面でも安心して暮らすことが出来るホームである。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ゆとりある生活空間は快活な雰囲気があり、ユニット間の広いホールを活用し、ホームパーティや喫茶等、様々な行事が催されている。また、博多湾の眺望やベランダでの野菜作りを楽しんだり、一人での時間を過ごし気分転換を図る場所としても活用されている。管理者、職員は、個人の尊厳等の研修実施やサービ向上委員会での活動、運営推進会議を通じた働きかけ等を通じて、理念の共有や実践に結びつける取り組みを重ねている。センター方式を用いた細やかなアセスメントが実施されており、職員間の情報共有やコミュニケーションツールとして活用しながら、入居者一人ひとりの理解を深め、信頼関係の構築や暮らしの継続に向けたアプローチを行なっている。母体となる医療機関との併設であることから、日常の健康管理はもとより、医療ニーズへの迅速な対応が可能であることは、本人、家族にとっても大きな安心感となっている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼にて出勤職員全員で確認・唱和し、その実践に取り組んでいる。	日々の朝礼時の唱和や、申し送り、カンファレンス等にて振り返りや確認する機会を持っている。毎月開催されるサービス向上委員会の中でも理念についてふれ、特に入居者の「尊厳」を大切にされた支援について、あらためて意識付けを行なっている。また、運営推進会議の中で、毎回、理念や方針を説明し、共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会や文化祭への参加や小中学生の訪問受け入れをしている。また散歩中に地域の方々にお声かけをするなど、日頃から地域との交流を欠かさないよう心がけている。	今津福祉村として、当地域の様々な社会福祉施設や医療機関、特別支援学校が、地域に根ざした活動を行っており、運動会や文化祭等の参加、見学を通じて、交流を重ねている。また、小・中学校の体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の受け入れなど地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、ご家族、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を受け、活動状況等を報告し、意見・要望を伺い質の向上につなげている。	運営推進会議には、入居者、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域の他事業所職員の参加を得ている。全家族への開催案内を行い、スケジュール調整の工夫等も行われており、実際に家族の参加する機会が多い。また、近隣の他事業所からの参加を得ることで、サービス向上に向けた相互の連携に結び付けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に電話やメールにて連絡を取っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ている。また、不明な点などがある場合には、電話連絡や直接出向き、相談や助言を得ている。ケースワーカーの方との連携や情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体例を理解しており、現在拘束を行っている利用者はいない。ご家族にたいしても、転倒等のリスクがあっても拘束をしないことの重要性を説明している。現在、目に見えない拘束として、スピーチロックを年間目標に挙げ、全職員がその実践に取り組んでいる。居室のベランダ側扉は非常時使用が前提で施錠している他は日中自由に使えるようになっている。	禁止の対象となる具体的な行為はもとより、スピーチロックへの意識を高めるべく、年間目標の中に位置付け、より良いケアの実践につなげるよう取り組んでいる。リスクや弊害については、家族とも共有認識を育みながら、安全面の配慮と個人の尊重を大切にされた日々の実践に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム シーサイド

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やカンファレンスの実施とともに、職員増員、業務内容・手順の見直し、有給休暇の計画的宗特など職員の精神的ゆとりにも配慮している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者には入居時・運営推進会議等で制度の説明を行っている。成年後見用診断書の取得等についても必要な支援を行っている。	実際に、権利擁護に関する制度を活用されている方もおり、年間計画の中に外部研修への参加機会を位置付けながら、学ぶ機会を確保している。入居の際の説明や、運営推進会議での情報提供が行なわれている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約締結・解除の際はご本人及びご家族に対して十分な説明を行い、納得されたうえで手続きを行っている。契約中においても疑問点等にはその都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃のコミュニケーションを図るほか、ホーム意見箱・苦情相談窓口を設けるとともに市・国保連等の紹介を行っている。意見・要望は専用書式に記録・回覧し、改善を図っている。	運営推進会議の開催を、全家族に案内し、実際に家族が参加する機会も多い。また、日常的に来訪しやすいよう、送迎バスも運行されている。表出された意見や要望についての集計や分析を行い、運営に反映させるように取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や申し送りノートなどを利用し職員の意見・提案を集約している。	毎月、各ユニットごとに会議を行い、出された意見や提案を、合同会議にて検討している。現在、職員の能動的な関わりを促しながら、業務改善に取り組んでいるところである。専用車両の導入等、実際に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生 の充実、定時退社や有給休暇の計画的取得など働きやすい勤務環境に配慮しており、定着率も高い。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたり、性別や年齢等を理由に対象から外すことはなく、人物本位で選考している。職員の趣味・特技をホーム活動に活かしており、資格取得等においては休暇希望に応じている。	職員の採用にあたっては、人柄や意欲を重視し、年齢や性別による排除は行われていない。また、定年後の嘱託雇用も可能となっている。外部研修に持ち回りで参加し、費用についてもサポートが行われている。法人全体での職員育成体制の充実や、託児所が整備されている等、個別のスキルアップや働きやすい環境作りへの配慮が行われている。	

福岡県 グループホーム シーサイド

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に個人の尊厳をテーマとした内部研修を行っている。	内外の研修機会を確保し、人権教育、啓発に取り組んでいる。特に、人権や個人の尊厳、倫理・法令遵守、プライバシー等、法人内での研修で継続して取り上げながら、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を回覧し参加を募るほか、管理者が指名し参加させるなど、段階に応じ偏りなく研修が受講できるよう配慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状に満足することなく、外部研修や同業者との交流や資格取得の勧めなど個々の向上心を触発できるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限りご本人から思いや意向を伺い、それを受け止めることにより、信頼いただけるよう関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至る過程で、ホームの機能・役割について説明を交えながら、願いや意向を伺うよう努めている。疑問点などの問い合わせにはその都度対応している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の希望・状況等を勘案し、他のサービスを含め情報提供を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の興味・関心にあわせ、過去の経験・知恵やそれに基づくアドバイスなどを伺う機会を積極的ににつくり、職員も学びながら互いに支えあっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に口頭・文書にて利用者の近況報告をしている。それに対しご家族から提案をいただくこともあり、一緒に利用者を支えて行くことが出来ている。		

福岡県 グループホーム シーサイド

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親類や知人の来訪もあり、またお越しいただけるよう働きかけを行っている・ご家族等の協力を得て馴染みや思い出のある場所へ出かけられることもある。	家族や知人の来訪を歓迎する雰囲気があり、来訪者との会話を心がける等、次の機会に繋がるよう働きかけを行なっている。また、家族の協力のもと、冠婚葬祭への出席等が行われている。センター方式の活用を通じて、馴染みの関係性の把握に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を把握し、それによっては職員がうまく関係を取り持つよう心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入院先にお見舞いに伺ったり、関係者の来訪やご家族からの相談をお受けしたり、継続的な関わりを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用や日々の生活の中での聞き取りのほか、意思表示のが困難な方は表情や態度からくみ取り、利用者の希望・意向の把握に努めている。	センター方式を用い、一人ひとりの入居者に対し、状況の変化を踏まえながら、継続的に経過を追っての記録がされており、状況把握がしやすい記録がある。職員間の情報の共有化にも役立てられており、コミュニケーションツールとしても活用されている。	情報量は多く、個々人を深く把握できるよう取り組んでいる。把握された情報をもとに、カンファレンスの充実を図り、実際の支援に活かしていくことや、介護計画の中に具体的に盛り込むことで、関係者との共有が図りやすく、更なる個別支援の充実に関わり付けていくことが期待されます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族などからの聞き取りにより、出来る限り詳細な情報を把握できるよう努めている。入居後に把握した情報もアセスメント等に活かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らし、その中での変化や、気づき、できたこと・できなかったことは記録と申し送りを行い、全体像を把握している。利用者の持てる力を引き出すための働きかけを心掛けている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思の伝達が難しい利用者でも日常の表情や態度等より思いをできるだけ汲み取り、ご家族の希望・職員の意見等があればそれも反映して作成及びモニタリングを行っている。	本人、家族の意見・要望を踏まえ、医療系関係者からの意見も聴取し、職員の気づき等を担当者会議で話し合った上で、状況に応じた介護計画の立案やモニタリングが行われている。ケアプラン実施表及び評価表(日勤・夜勤)を用い、より実効的なケアマネジメントに結び付けるべく、真摯な取り組みが確認できる。	

福岡県 グループホーム シーサイド

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子や気づき等、介護計画実施表に実践結果の記録とその申し送りをを行い、情報の共有を図るとともに介護計画の見直しにも活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院併設の特性を生かし、医療面では医師・看護師とも馴染みの関係となり、支援体制を充実させている。外出・外泊の支援も柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアや小中学生の来訪、民生委員など地域の方々に理解を得ながら協働している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・ご家族の希望される医療機関で受診していただいている。併設医療機関では定期受診のほか、状態変化時にはいつでも受診できる体制があり、きめ細かい医療が受けられるよう配慮している。	入居時に、かかりつけ医について確認している。多くの方は、併設医療機関での受診を行っており、医師、看護師との連携もしやすく、ホームでの状況も把握されやすい。毎日、看護師が訪問しており、日常の健康管理や早期対応に結び付けている。来訪時や電話連絡、個別の通信を通じて、家族との情報共有を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医療機関の看護師と常に連携し、医療面でのアドバイスを受けながら、利用者の日常的な健康管理や医療活用を支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の特性を踏まえ、情報提供を行うとともに、入院後の心身の状況把握と早期退院のため、医療機関を訪問し、関係者との情報交換や退院時期の調整を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期における対応を利用契約時に説明し、利用者・ご家族の同意を得ている。状況の変化に応じ、ご家族・主治医等を交えた協議を行い、対応方針の共有化を図り、ホームとして可能な範囲で支援している。	入居の際に、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の方針を説明し、同意を得ている。また、センター方式の活用を通じた思いの把握や、状況の変化に伴うその都度の意向確認を行っている。医療機関が併設されていることから、医師や看護師との密な連携や、職員間での話し合いを重ねながら、出来る限りの支援を行っている。	

福岡県 グループホーム シーサイド

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成・掲示し、初期対応を定めている。職員に外・内部の救命救急講習を受講させている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画・防災マニュアルを策定し、年2回(うち1回は消防署立ち会い)避難誘導訓練を行っている。	法人全体で、年2回、消防署の立会いも含む、夜間を想定した避難訓練を行っている。ホームを火元と想定し、併設される母体医療機関や事業所より職員が駆けつけ、連携を確認する機会も持っている。また、独自に、事前連絡無しに訓練を行った実績もある。法人施設は地域の避難場所としての機能もある為、備蓄物品も事業所独自に準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴や性格を踏まえ、その方にとって適切な言葉かけや対応をするよう心掛けている。全職員に誓約書を提出させるなど個人情報の保護に留意している。	内部研修計画の中に、個人の尊厳、接遇、個人情報保護等を位置付け、職員の意識を高めている。日常の中で、馴れ合いとならないよう、職員同士で注意し合い、振り返りの機会を持っている。また、その都度の意向確認等、意思の表出や自己決定の場面を支援している。居室以外にも、ホールで一人で過ごせるよう見守りの距離感を保つ等、その時々居場所の確保についても大切にしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服や外出時のメニュー、外出のお誘いなど機会をとらえ、できる限りご自身で決めたり希望を表すことができるよう、その方に合った働きかけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や気分、もてる力に応じ、それぞれのリズムを尊重している。起床・就寝時間や食事・入浴にかかる時間も異なるが、健康上支障のない範囲でマイペースで最後までしていただいている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者・ご家族の希望、同意の上で月1回訪問理美容を利用されている。衣服は外出時購入したものや、ご家族お持ち込みのものがあるが、その人らしい身だしなみやおしゃれの支援はできている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の関心や持てる力を活かし、食事に関する一連の作業に参加していただいている。食べる場面では職員も食卓につき、会話をしたり必要な支援を行っている。月1回外食に出かけている。	調理の準備や片付けの時間は、その方の心身状態に合わせ、可能な活動協力を得ながら共に過ごしている。食事も同じテーブルを囲み、和やかな食事風景があった。嗜好や形状についても、細やかな対応が確認できる。毎月、希望に応じた外食に出かけたり、ホールでは、すき焼きやピザ等を囲み、ホームパーティが開催されたり、喫茶を楽しむ機会を持つ等、「食」の楽しみは充実している。	

福岡県 グループホーム シーサイド

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の年齢・体重・活動量などを踏まえたカロリー量を設定し、ご飯やおかずの量を調整している。水分量も必要量を摂取されるよう気を配っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全利用者に見守り・介助など何らかの口腔ケアを行っている。義歯の方は毎日洗浄剤を使っている。利用者によっては訪問歯科診療にて口腔内のチェックや治療を受けられてえている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録・把握し、利用者一人ひとりの排泄パターンにおうじて必要な誘導・介助を行っている。利用者の状況により下着の使い分けもしている。	必要な方の排泄表を作成し、個別のパターンの把握に努めている。一人ひとりの排泄状況にあわせて、排泄用品の検討や、日中と夜間の支援を見極める等、個別の支援が行われている。実際に、夜間も含め、おむつを使用している方は少ない。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操、散歩など適度に身体を動かす働きかけを行っている。下剤を服用されている方も主治医への報告・相談により必要最小限にできるよう努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則1日おきの入浴だが、希望があればシャワー浴・清拭・翌日にずらすなど、柔軟に対応している。入浴拒否をされる利用者には、無理強いせず、時間をおいたり職員を変えたりしての声かけなどを行っている。	毎日、入浴準備を行い、希望や体調、状況に応じて、柔軟に対応している。希望があれば、毎日の入浴にも対応している。入浴剤を用いる等、ゆっくりとした入浴となるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を確保するよう努めており、十分な睡眠・休息の不足により日常生活に支障がある利用者はおられない。睡眠薬に頼らないよう心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助マニュアルを作成し、仕分けから服薬まで手順を定めている。薬の説明書をファイルに綴じ、その目的・副作用などについて確認している。服薬後の状況にも気を配っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や好みを把握するとともに職員が共有して、日々の生活の中でそれを活かすよう努めている。		



福岡県 グループホーム シーサイド

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や好みを踏まえながら、月1回の外食のほか、地域の行事(運動会、文化祭等)買物など外出支援を行っている。	希望を聴取しながら、月に1回外食に出かけている。日々は散歩やドライブ等の活動で屋外に出かけ、季節の変化を感じて頂いたり、運動の機会、地域の方との交流の機会を持っている。ペランダでの野菜作りや、近隣に苜掘りに出かける機会もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は利用者と社会生活を結び付ける重要な手段の一つであり、その方の力に応じて所持・支払いをしていただいている。常時所持されていない方でも、外出時など支払いをしていただく場面を作るようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時電話」の利用や手紙の取り次ぎを支援している。また利用者直筆の年賀状や暑中見舞いをご家族にお送りしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の強弱は明かり取りの窓やロールカーテン等で調節、テレビの音量も職員がこまめに調整するなど快適な環境に配慮している。家事に関する音やにおい、季節ごとの飾り付け、日めくりの暦など普段の暮らしの中に五感刺激を採り入れている。	共用空間は、適度な明るさ、生活音等があり、落ち着きのある生活空間となっている。ユニット内のスペースだけでなく、ユニット間の共用ホールにも自由に行き来が出来、訪問時その場所をお気に入りの場所とされる方が、プライベートな時間を過ごしていた。時には、喫茶やホームパーティーを行う場所としても活用している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの共用ホールにも、テーブル・椅子・籐のスクリーンを用意しており一人や少人数でお過ごしいただく空間を確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台・クローゼット・電灯等を備え付けている。その他利用者・ご家族の意向で家具やテレビ、仏壇など自由に持ち込まれている。出来る限りご本人の思い入れのある品をお持ち込みいただくようお願いしている。	ゆとりある広さの各居室には、愛用の品々や使い慣れた筆筒、テーブルセットやソファ等が持ち込まれており、個々人の居室作りが行われている。また、家族との写真や絵が飾られる等、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはネームプレートを、食堂や浴室、トイレ等も各々表示している。その他認識が難しい利用者の方向けに、目線の高さに居室やトイレの表示を設けている。		